

【本文】

五濁悪世の有情の

選 択本願信ずれば

不可称 不可説不可思議の

功德は行 者の身にみたり

【意識】

様々な濁りに満ちた今世に生きる人々であつても、

阿弥陀様によつて選り抜かれ恵まれたお救いの心を信ずるならば、

称え尽くせない、言い表し尽くせない、心ではかり尽くせない

それほどの功德がお念仏する人の身に具(そな)わるのです。

【私の味わい】

旅番組などを見ると、レポーターがその土地の郷土料理を食べて感想を言う場面が出てきます。「うん、美味しい」だけでは寂しいので、「芳醇な」とか、「秋を感じさせる」など様々な修辭で表現をされています。それを見て、私はあんなに色々な言葉で表現できないだろうな、と思います。元々、食べ物に関して興味がそれほどないからかもしれませんが。言葉は心の使い、とも言われるように、心になくことは言葉にも出ないという事なのでしょう。

上記のご和讃の中で、親鸞聖人は南無阿弥陀仏の中には、人の言葉、心では語りつくせない、称え尽くせない程の功德が満ちている、と仰っています。私たちが成仏させる全てのの要素が。

南無阿弥陀仏の素晴らしさは、釈迦嘆じてなおつきず、お釈迦様でも説きつくせない程である、とも言われます。お釈迦様でも不可能なのだから、ましてや私の言葉や心で捉えきれぬような大きさ、深さではない、ということなのです。

これは、私たち人間にその果てしない奥行を知らせてくださると共に、南無阿弥陀仏のお心は一生かけても聞きつくせない、だからこそ聴聞し続けなさい、ということも教えてくれています。私もそのことを念頭に法話、聴聞をさせて頂きたいと思ひました。

(悠水)